

## 第20回アドバイザー・ボード会合の概要

「アドバイザー・ボード」の第20回会合の日時・出席者・概要等については、以下に示すとおりである。

日 時：2022（令和4年）年3月16日（水）15時00分～17時00分

場 所：オンライン開催

出席者：

アドバイザー・ボード委員（五十音順、敬称略）

石井淳蔵、蔭山秀一、川上智子、鳥居 敬、箸本史朗、八木一法、  
研究科教員

南 知恵子、梶原武久、堀口真司、三古展弘、馬 岩、音川和久

最初に、梶原副研究科長から、大学院生終了時アンケート調査にみる経営学研究科の教育実績、経営学研究科の課題として日本人院生・内部進学者の減少、後期課程進学者の減少、学生ニーズと教育のミスマッチング、社会人学生の長期滞について説明があった。また、課題に対する取組として、研究者を目指す大学院生に対する経済的支援について報告した。

次に、三古入試・学生委員から、経営学研究科・経営学部で複数実施している入学試験の説明とその試験毎の入学定員の管理方法について説明があった。また、学業と就職活動の現状について説明があった。

次に、馬学部教務委員から六甲台後援会の支援を受け経営学部に導入した神戸大学学生向け事業家育成プログラム（プレスタ）について、プログラムの概要説明、参加した学生による評価結果について説明があった。

次に、南研究科長から、2021年度中に経営学研究科で実施したイベント、国立大学として受審が必要な評価の種類、第4期中期計画期間の共通評価指標の項目、GMAPの後継プログラム（KIMAP）の概要説明、研究科内に設置した2つの部局内センターの紹介、企業からの寄附により開講する寄附講義の説明があった。

次に、堀口MBA教務委員から神戸大学MBAプログラムに関して歴史・特徴・コンセプト・カリキュラム・修了要件・コア科目・プロジェクト科目・コロナ対応の説明があった。また、今後の課題として、KPIとして受験者倍率を掲げており、その目標達成のため志願者増加へ向けた取り組み（公開セミナーの更なる充実、オンラインによる体験フォーラムの実施）について説明があった。

これらの報告の後、経営学研究科が取り組んでいる内容に関してアドバイザー・ボード委員から、学生ニーズと教育のミスマッチングや国と経営学研究科が目指す方向性の違いに対する戦略、学生・受験生に向けた神戸大学の魅力の発信力強化、企業との連携強化、実践的な研究やフィールドワークの重要性、時代に即した授業科目やカリキュラム構成の検討、神戸の特長である研究思考の継続、アフターコロナのハイブリッド教育の継続等多岐にわたるアドバイスやコメントがあり、出席者による活発な意見交換が行われた。